



花のしおり

石川県立金沢伏見高等学校

図書だより

図書委員会

130号

令和元年9月6日発行

お月見

九月の十五夜は中秋の名月です。
今年も晩夏の長雨で、きれいな月を見れる晴れた夜があるのかな？と思ってしまうですね。



月には満ち欠けによって、名前がつけられています。
三日目は「眉月(まゆづき)」、満月は「望月(もちづき)」、
十七夜は「立待月(たちまちづき)」。
そして月のない夜を「星月夜」といいます。
涼しくなるこの時季の夜長は、勉強や読書に最適です。
中国詩人韓愈(かんゆ)が我が子にあてたという詩編の一節に、「灯火(とうか)親しむ」といって、灯し火の下、心を静めて文字と親しむという意味のことばがあります。
この時季に使うことばだそうです。
晴れの夜には美しい月の観察をしたいものです。
(「話したい、使いたい 心ときめくことばの12か月」より引用)

お知らせとお願い

★★
夏休みの貸出本の返却期限は9月5日まででした。
まだ返却していない本は、早めに手続きをお願いします。

★★

図書室の本を借りたまま

延滞していませんか？

長い間返していない人には、督促状を発行します。
届いたら身の回りを今一度確認して、返却してください。
返したはず…と思ったら、図書室まできてください。

★★

2019年度 受賞作品紹介 (図書室に所蔵予定です)

芥川賞 (純文学向けの賞)

『むらさきのスカートの女』 今村夏子著

近所に住む「むらさきのスカートの女」と呼ばれる女性のことが、
気になって仕方がない“わたし”は、彼女と「ともだち」になるために、
自分と同じ職場で彼女が働きだすよう誘導する。



直木賞 (大衆文学向けの賞)

『渦 妹背山婦女庭訓 魂結び』 大島真寿美著

浄瑠璃作者・近松半二の生涯を描いた比類なき名作。筆の先から墨がしたたる。やがて、
わしが文字になって溶けていく——虚実の渦を作り出したもう一人の近松がいた。



江戸川乱歩賞 (推理小説新人賞)

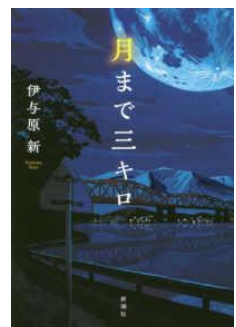
『ノワールをまとう女』 神護かずみ著

日本有数の医薬消費財メーカー美国堂が舞台。傘下に入れた韓国企業の社長による過去の反日発言の映像がネットに流れ、「美国堂を糺す会」が発足して糾弾される事態に。
トラブル処理を任された西澤奈美は不買運動を仕掛ける団体に潜り込み、沈黙化に尽力。そこで、ともに児童養護施設で育ったナミという女性に再開する…。

新田次郎文学賞

『月まで三キロ』 伊与原新著

月に一番近い場所。死を覚悟した男がそこで見たものは一。天文学、ニュートリノ、雪の結晶。科学が人の想いを結びつける短篇集。折れそうな心に寄り添う六つの物語。



図書館講座開催報告



ミニ ビブリオバトルをしました！

『ビブリオバトルをやってみよう！』（「県政出前講座」）を7/5に開催しました。講師として、石川県立図書館職員の黒崎 修司さん・松尾 萌咲さんに来ていただきました。図書委員から17人が参加しましたが、3つのグループに分かれて、紹介したい本をそれぞれ1冊ずつ持ち寄り、講師の説明を受けた後、3分間の本の紹介トークをしました。バトルのトークが終わると、聴衆から3分間の質問タイムとなり、気になる点を掘り下げてきいたり、共感できた部分の感想を話したり、どんな質問をしようかと少しの沈黙がありながら、本の良さを知る楽しい時間となりました。最後は、グループ内で一番読みたいと思った本を、いっせいに指さして、チャンプ本を決めました。この講座を通して、ビブリオバトルの面白さ・本の魅力を共有する楽しさを知ることができ、図書委員にとって貴重な体験となりました。

★チャンプ本紹介（発表者）★

Aグループ・・・『屍人荘の殺人』今村 昌弘著 （12H 吉岡 茉那さん）

Bグループ・・・『「悩み部」の結成とその結末』麻希 一樹著 （13H 川越 琉雅さん）

Cグループ・・・『ふたご』藤崎 彩織著 （21H 林 美慶さん）

古本市開催報告

8/31の清流祭では、図書委員による『古本市』を行いました。今年の見玉は、芸能人著者によるサイン本や、人気漫画の美品でした。読みたかった本が手頃な値段ということで、手に取りやすいというのが古本市の良さです。たくさんの生徒を初め、父兄のみなさんや、先生がたにもご購入いただきました。また、ご家庭から本をご提供していただき、ありがとうございました。1年生はカウンター当番・片づけを、2年生・3年生は準備などお手伝いをありがとうございました。おかげさまで、延べ453人が来館してくださり、売り上げも昨年にはおよびませんでした。好成績でした！売上金は、図書委員会での活動・運営に充てさせていただきます。



ビブリオバトル



古本市

展示紹介

『作家の木』（アドベントカレンダー）

図書室では、毎月の日ごとに、その日生まれの作家の紹介をしています。大きな木のタペストリーに、1日1枚1作家を紹介したカードを一月分吊るしています。特に、伏見高校に所蔵本のある作家の中心に紹介しています。文豪から、新人まで、知らない名前もあると思いますが、この本はこんな作家が書いた本だった！など、おもしろい発見になるかもしれません。いろいろなジャンルの本に興味を持つ機会になれば良いと思います。図書室に来たら、是非「作家の木」を見てくださいね！



展示「作家の木」